日本古典全書

萬葉集 二

監修　高木市之助　久松潛一
山岸德平　小島吉雄

萬葉集

二

佐伯梅友校註
藤森朋夫校註
石井庄司校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

佐伯梅友（さへきうめとも）
明治三十二年埼玉縣生。昭和三年京都大學國文学科卒業。東京教育大學名譽教授。大東文化大學教授。主―著萬葉語研究、源氏物語新抄、古今和歌集等。

藤森朋夫（ふぢもりともを）
明治三十一年長野縣生。昭和四年東北大學國文學科卒業。東京女子大學教授を經て大東文化大學教授。主著―提中納言物語新釋、萬葉集研究書誌、近代秀歌等。

石井庄司（いしゐしやうじ）
明治三十三年奈良縣生。昭和三年京都大學國文學科卒業。東京教育大學教授を經て東海大學教授。主著―國文學と國語教育、國語科教育法案等。

日本古典全書
「萬葉集」二　佐伯梅友・藤森朋夫・石井庄司校註
昭和二十五年八月三十日初版發行
昭和四十三年三月二十日第八版發行
印刷所　明善印刷株式會社
發行所　朝日新聞社（東京都千代田區有樂町・大阪市北區中之島・北九州市小倉區砂津・名古屋市中區榮）
定價　四六〇圓

目次

本文

〔訓〕

巻第五……三

雑歌……三

七九三　太宰の帥大伴の卿の、凶問に報ふる歌一首

七九四　筑前の守山上の臣憶良の挽歌一首　并に短歌

八〇〇　山上の臣憶良の、惑へる情を反さしむる歌一首　并に短歌

八〇三　山上の臣憶良の、子等を思ふ歌一首　并に短歌

八〇四　山上の臣憶良の、世間の住まり難きを哀しぶる歌一首　并に短歌

〔原文〕

巻第五……一六五

雑歌……一六五

七九三　大宰帥大伴卿報凶問歌一首

七九四　筑前守山上臣憶良挽歌一首　并短歌

八〇〇　山上臣憶良令反惑情歌一首　并短歌

八〇三　山上臣憶良思子等歌一首　并短歌

八〇四　山上臣憶良哀世間難住歌一首　并短歌

八〇六 太宰の帥大伴の卿の相聞の歌二首
八〇八 答ふる歌二首
八一〇 帥の大伴の卿の、梧桐の日本琴を中衛の大將藤原の卿に贈る歌二首
八一三 中衛の大將藤原の卿の報ふる歌一首
八一三 山上の臣憶良の、鎭懷石を詠める歌一首 并に短歌
八一五 太宰の帥大伴の卿の宅の宴の梅花の歌三十二首 并に序
八四七 故郷を思ふ歌二首
八四九 後に追ひて和ふる梅花の歌四首
八五三 松浦の河に遊びて贈り答ふる歌二首
八五五 蓬客等の更に贈れる歌三首
八五八 娘等の更に報ふる歌三首
八六一 帥の大伴の卿の追ひて和ふる歌三首
八六四 吉田の連宜の、梅花の歌に和ふる一首

八〇六 大宰帥大伴卿相聞歌二首
八〇八 答歌二首
八一〇 帥大伴卿梧桐日本琴贈中衛大將藤原卿歌二首
八一三 中衛大將藤原卿報歌一首
八一三 山上臣憶良詠鎭懷石歌一首 并短歌
八一五 大宰帥大伴卿宅宴梅花歌三十二首 并序
八四七 思故郷歌二首
八四九 後追和梅花歌四首
八五三 遊松浦河贈答歌二首
八五五 蓬客等更贈歌三首
八五八 娘等更報歌三首
八六一 帥大伴卿追和歌三首
八六四 吉田連宜和梅花歌一首

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

八六五 吉田の連宜の、松浦の仙媛の歌に和ふる一首
八六六 吉田の連宜の、君を思ふこと未だ盡きず、重ねて題せる二首
八六八 山上の臣憶良の松浦の歌三首
八七一 領巾麾の嶺を詠める歌一首
八七三 後の人の追ひて和ふる歌一首
八七一 最後の人の追ひて和ふる歌一首
八七四 最最後の人の追ひて和ふる歌二首
八七六 書殿にて餞酒せし日の倭歌四首
八八〇 敢へて私の懷を布ぶる歌三首
八八三 三島の王の、後に松浦佐容媛の歌に追ひて和ふる一首
八八四 大典麻田の連陽春の、大伴の君熊凝の爲に志を述ぶる歌二首
八八六 山上の臣憶良の、熊凝の爲に志を述ぶる歌に和ふる

八六五 吉田連宜和松浦仙媛歌一首
八六六 吉田連宜思君未盡重題二首
八六八 山上臣憶良松浦歌三首
八七一 詠領巾麾嶺歌一首
八七三 後人追和歌一首
八七三 最後人追和歌一首
八七四 最々後人追和歌二首
八七六 書殿餞酒日倭歌四首
八八〇 敢布私懷歌三首
八八三 三島王後追和松浦佐容媛歌一首
八八四 大典麻田連陽春爲大伴君熊凝述志歌二首
八八六 山上臣憶良和爲熊凝述志歌一首 并短

一首 幷に 短歌
八九二 貧窮問答の歌一首 幷に 短歌
八九四 山上の臣憶良の、好去好來の歌一首 幷に 短歌
山上の臣憶良の、痾に沈みて自ら哀しぶる文一首
山上の臣憶良の、俗道の、假合は卽ち離れて、去り易く留まり難きを悲しび歎く詩一首 幷に 序
八九七 山上の臣憶良の重き病に兒等を思ふ歌一首 幷に 短歌
九〇四 男子名は古日に戀ふる歌一首 幷に 短歌
卷第六……三七
雜歌……三七
九〇七 養老七年癸亥の夏五月、芳野の離宮に幸せる時、笠の朝臣金村の作れる歌一首 幷に 短歌
九一〇 或本の歌三首
九一三 車持の朝臣千年の作れる歌一首 幷に 短歌
九一五 或本の歌二首

歌
八九二 貧窮問答歌一首 幷 短歌
八九四 山上臣憶良好去好來歌一首 幷 短歌
山上臣憶良沈痾自哀文一首
山上臣憶良悲歎俗道假合卽離易去難留詩一首 幷序
八九七 山上臣憶良重病思兒等歌一首 幷 短歌
九〇四 戀男子名古日歌一首 幷 短歌
卷第六……一九九
雜歌……一九九
九〇七 養老七年癸亥夏五月幸于芳野離宮時笠朝臣金村作歌一首 幷 短歌
九一〇 或本哥三首
九一三 車持朝臣千年作歌一首 幷 短歌
九一五 或本哥二首

九一七　神龜元年甲子の冬十月、紀伊の國に幸せる時、山部の宿禰赤人の作れる歌一首　并に短歌
九二〇　二年乙丑の夏五月、芳野の離宮に幸せる時、笠の朝臣金村の作れる歌一首　并に短歌
九二三　山部の宿禰赤人の作れる歌二首　并に短歌
九二八　冬十月、難波の宮に幸せる時、笠の朝臣金村の作れる歌一首　并に短歌
九三一　車持の朝臣千年の作れる歌一首　并に短歌
九三三　山部の宿禰赤人の作れる歌一首　并に短歌
九三五　三年丙寅の秋九月十五日、播磨の國印南野に幸せる時、笠の朝臣金村の作れる歌一首　并に短歌
九三八　山部の宿禰赤人の作れる歌一首　并に短歌
九四二　幸荷の島を過ぐる時、山部の宿禰赤人の作れる歌一首　并に短歌
九四六　敏馬の浦を過ぐる時、山部の宿禰赤人の作れる歌一

九一七　神龜元年甲子冬十月幸于紀伊國時山部宿禰赤人作歌一首　并　短歌
九二〇　二年乙丑夏五月幸于芳野離宮時笠朝臣金村作歌一首　并　短歌
九二三　山部宿禰赤人作歌二首　并　短歌
九二八　冬十月幸于難波宮時笠朝臣金村作歌一首　并　短歌
九三一　車持朝臣千年作歌一首　并　短歌
九三三　山部宿禰赤人作歌一首　并　短歌
九三五　三年丙寅秋九月十五日幸于播磨國印南野時笠朝臣金村作歌一首　并　短歌
九三八　山部宿禰赤人作歌一首　并　短歌
九四二　過幸荷島時山部宿禰赤人作歌一首　并　短歌
九四六　過敏馬浦時山部宿禰赤人作歌一首　并　短

首幷に短歌
九四八　四年丁卯の春正月、諸王諸臣子等に勅して、授刀寮に散禁せしめらるる時、作れる歌一首幷に短歌
九五〇　五年戊辰、難波の宮に幸せる時、車持の朝臣千年の作れる歌四首
九五四　同じき幸の時、膳の王の作れる歌一首
九五五　太宰の少貳石川の朝臣足人の歌一首
九五六　帥の大伴の卿の和ふる歌一首
九五七　冬十一月、太宰官人等、香椎の廟を拜み奉りし時、帥の大伴の卿の作れる歌一首
九五八　大貳小野の朝臣老の作れる歌一首
九五九　豐前の守宇努の首男人の作れる歌一首
九六〇　帥の大伴卿の遙に芳野の離宮を思ひて作れる歌一首
九六一　同じき卿の、次田溫泉に宿りて、鶴の喧くを聞きて作れる歌一首

歌

九四八　四年丁卯春正月勅諸王諸臣子等散禁於授刀寮時作歌一首幷短歌
九五〇　五年戊辰幸于難波宮時車持朝臣千年作歌四首
九五四　同幸之時膳王作歌一首
九五五　太宰少貳石川朝臣足人歌一首
九五六　帥大伴卿和歌一首
九五七　冬十一月大宰官人等奉拜香椎廟時帥大伴卿作歌一首
九五八　大貳小野朝臣老作歌一首
九五九　豐前守宇努首男人作歌一首
九六〇　帥大伴卿遙思芳野離宮作歌一首
九六一　同卿宿次田溫泉時聞鶴喧作歌一首

原书缺页

原

书

缺

页

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

九九四　大伴の宿禰家持の初月の歌一首
九九五　大伴の坂上の郎女の、親族と宴せる歌一首
九九六　六年甲戌、海犬養の宿禰岡麿、詔に應ずる歌一首
　　春三月、難波の宮に幸せる時の歌六首
九九七　作者未だ詳ならざる歌一首
九九八　船の王の歌一首
九九九　守部の王の歌二首
一〇〇一　山部の宿禰赤人の歌一首
一〇〇二　安倍の朝臣豐繼の歌一首
一〇〇三　筑後の守葛井の連大成の、遙に海人の釣船を見て作れる歌一首
一〇〇四　桉作の村主益人の歌一首
一〇〇五　八年丙子の夏六月、芳野の離宮に幸せる時、山部の宿禰赤人の、詔に應ずる歌一首 并に 短歌
一〇〇七　市原の王の獨子を悲しめる歌一首

九九四　大伴宿禰家持初月歌一首
九九五　大伴坂上郎女宴親族歌一首
九九六　六年甲戌海犬養宿禰岡麿應詔歌一首
　　春三月幸于難波宮時歌六首
九九七　作者未詳歌一首
九九八　船王歌一首
九九九　守部王歌二首
一〇〇一　山部宿禰赤人歌一首
一〇〇二　安倍朝臣豐繼歌一首
一〇〇三　筑後守葛井連大成遙見海人釣船作歌一首
一〇〇四　桉作村主益人歌一首
一〇〇五　八年丙子夏六月幸于芳野離宮時山部宿禰赤人應詔歌一首 并短歌
一〇〇七　市原王悲獨子歌一首

一〇〇八　忌部の首黒麿の友人の除く來るを恨むる歌一首
一〇〇九　冬十一月、葛城の王等に橘の姓を賜へる時、御製の歌一首
一〇一〇　橘の宿禰奈良麿の、詔に應ずる歌一首
一〇一一　冬十二月、葛井の連廣成の家に宴せる歌二首
一〇一三　九年丁丑の春正月、橘の少卿并に諸大夫等、彈正の尹門部の王の宅に宴せる歌二首　門部の王、橘の文明
一〇一五　榎井の王の、後に追ひて和ふる歌一首
一〇一六　春二月、諸大夫等の左少辨巨勢の朝臣宿奈麿の家に宴せる歌一首
一〇一七　夏四月、大伴の坂上の郎女の、相坂山を越ゆる時作れる歌一首
一〇一八　十年戊寅、元興寺の僧の自ら嘆く歌一首
一〇一九　石上の乙麿の卿の、土左の國に配せられし時の歌三首　并に短歌

一〇〇八　忌部首黒麿恨友人除來歌一首
一〇〇九　冬十一月葛城王等賜橘姓之時御製歌一首
一〇一〇　橘宿禰奈良麿應詔歌一首
一〇一一　冬十二月葛井連廣成家宴歌二首
一〇一三　九年丁丑春正月橘少卿并諸大夫等宴彈正尹門部王宅歌二首　門部王橘文明
一〇一五　榎井王後追和歌一首
一〇一六　春二月諸大夫等宴左少辨巨勢朝臣宿奈麿家歌一首
一〇一七　夏四月大伴坂上郎女越相坂山時作歌一首
一〇一八　十年戊寅元興寺之僧自嘆歌一首
一〇一九　石上乙麿卿配土左國時歌三首并短歌

一〇二四　秋八月、右大臣橘家に宴せる歌四首
一〇二八　十一年己卯、天皇の高圓の野に遊獵し給へる時、堵中に遁れ走れる小獸を獲て御在所に獻るに擬へて、大伴の坂上の郎女の作れる歌一首
一〇二九　十二年庚辰の冬十月、太宰の少貳藤原の朝臣廣嗣、反を謀り軍を發せるに依りて、伊勢の國に幸せる時、河口の行宮にて內舍人大伴の宿禰家持の作れる歌一首
一〇三〇　天皇の御製の歌一首
一〇三一　丹比の眞人屋主の歌一首
一〇三三　狹殘の行宮にて大伴の宿禰家持の作れる歌二首
一〇三四　美濃の國多藝の行宮にて、大伴の宿禰東人の作れる歌一首
一〇三五　大伴の宿禰家持の作れる歌一首
一〇三六　不破の行宮にて、大伴の宿禰家持の作れる歌一首
一〇三七　十五年癸未の秋八月、內舍人大伴の宿禰家持の、久邇

一〇二四　秋八月右大臣橘家宴歌四首
一〇二八　十一年己卯天皇遊獵高圓野之時獲遁走堵中小獸擬獻御在所大伴坂上郎女作歌一首
一〇二九　十二年庚辰冬十月依大宰少貳藤原朝臣廣嗣謀反發軍幸于伊勢國之時河口行宮內舍人大伴宿禰家持作歌一首
一〇三〇　天皇御製歌一首
一〇三一　丹比眞人屋主歌一首
一〇三三　狹殘行宮大伴宿禰家持作歌二首
一〇三四　美濃國多藝行宮大伴宿禰東人作歌一首
一〇三五　大伴宿禰家持作歌一首
一〇三六　不破行宮大伴宿禰家持作歌一首
一〇三七　十五年癸未秋八月內舍人大伴宿禰家持

の京師を讃めて作れる歌一首
一〇三八 高丘の連河内の歌二首
一〇四〇 安積の親王の、左少辨藤原の朝臣八束の家に宴せる日、内舍人大伴の宿禰家持の作れる歌一首
一〇四一 十六年甲申の春正月、諸卿大夫、安倍の朝臣蟲麿の家に宴せる歌一首
一〇四二 同じき月十一日、活道岡に登り、一株の松の下に集ひて飲せる歌二首 大伴の宿禰家持、市原の王
一〇四四 寧樂の京師の荒墟を傷み惜しみて作れる歌三首 作主未だ詳ならず
一〇四七 寧樂の故郷を悲しみて作れる歌一首 并に短歌
一〇五〇 久邇の新京を讃むる歌二首 并に短歌
一〇五九 春の日、三香原の荒墟を悲しみ傷みて作れる歌一首 并に短歌
一〇六二 難波の宮にて作れる歌一首 并に短歌

讃久邇京師作歌一首
一〇三八 高丘連河内歌二首
一〇四〇 安積親王宴左少辨藤原朝臣八束家之日内舍人大伴宿禰家持作歌一首
一〇四一 十六年甲申春正月諸卿大夫宴安倍朝臣蟲麿家歌一首
一〇四二 同月十一日登活道岡集一株松下飲歌二首 大伴宿禰家持市原王
一〇四四 傷惜寧樂京師荒墟作歌三首 作主未詳
一〇四七 悲寧樂故郷作歌一首 并短歌
一〇五〇 讃久邇新京歌二首 并短歌
一〇五九 春日悲傷三香原荒墟作歌一首 并短歌
一〇六二 難波宮作歌一首 并短歌

一〇六五　鰒馬の浦を過ぐる時作れる歌一首　并に短歌

巻第七……六九

雑歌……六九

一〇六八　天を詠める一首
一〇六九　月を詠める十八首
一〇八七　雲を詠める三首
一〇九〇　雨を詠める二首
一〇九二　山を詠める七首
一〇九九　岳を詠める一首
一一〇〇　河を詠める十六首
一一一六　露を詠める一首
一一一七　花を詠める一首
一一一八　葉を詠める二首
一一二〇　蘿を詠める一首
一一二一　草を詠める一首

一〇六五　過鰒馬浦時作歌一首　并短歌

巻第七……一三七

雑謌……一三七

一〇六八　詠天一首
一〇六九　詠月十八首
一〇八七　詠雲三首
一〇九〇　詠雨二首
一〇九二　詠山七首
一〇九九　詠岳一首
一一〇〇　詠河十六首
一一一六　詠露一首
一一一七　詠花一首
一一一八　詠葉二首
一一二〇　詠蘿一首
一一二一　詠草一首

二二三　鳥を詠める三首
二二五　故郷を思ぶ二首
二二七　井を詠める二首
二二九　倭琴を詠める一首
二三〇　芳野にて作れる歌五首
二三五　山背にて作れる歌五首
二四〇　攝津にて作れる歌二十一首
二六一　羈旅にて作れる歌九十首
二五一　問答の歌四首
二五五　時に臨みて作れる歌十二首
二六七　所に就きて思を發せる歌三首
二七〇　物に寄せて思を發せる一首
二七一　行路の歌一首
二七二　旋頭歌二十四首
譬喩歌……八

二二三　詠鳥三首
二二五　思故郷二首
二二七　詠井二首
二二九　詠倭琴一首
二三〇　芳野作歌五首
二三五　山背作歌五首
二四〇　攝津作歌二十一首
二六一　羈旅作歌九十首
二五一　問答歌四首
二五五　臨時作歌十二首
二六七　就所發思三首
二七〇　寄物發思一首
二七一　行路歌一首
二七二　旋頭歌二十四首
譬喩歌……二四五

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.